

2021 青森県南部町町勢要覧

Lifestyle of NANBU

新しい人々

南部町の固有の風土を守りながら生きる人々と、
移住してきた人々が共創する新しい生活。



●ポストコロナと南部町

新型コロナウイルス感染症対策のため、町では「今、困っている人を、今、支援する」を掲げ、令和2年度には第1弾の「飲食業者緊急対策支援金」から第5弾の「特別プレミアム商品券」まで、大きく5つの対策を、他町村に先駆け、スピード感を持って実施してきました。

地方創生臨時交付金として約4億8000万円を充当していますが、特に7月の第3弾では、「農畜産業先行型持続化給付金」として約2億3230万円を給付し、町の基幹産業を守ってきました。今後とも、推移を見ながら、全業種にバランスよくタイミングを捉えた対策を講じていきます。

この一連のコロナ問題と対応で、大きな時代の転換点が見えてきました。一つは大都市の感染拡大による「都市集中型」社会の弱点と、持続可能性からの「地方分散型」社会の必要性が認識されたこと。もう一つは経済や社会のデジタル化が一気に進んだことです。

これを「第4次産業革命」と指摘する専門家もありますが、ポストコロナは、地域にある価値を再確認し、内外にある新しい方向性と結びつける力の実現に向けていけるかどうか重要です。



【町長メッセージ】

心のキャッチボール対話で

南部町長 工藤祐直

●移住・定住対策と人口の定常化

地方の大きな問題が人口減少であることは、南部町においても変わりません。そのために移住・定住対策や、子育て支援の充実

を図ってきました。

例えば「空き家バンク等利活用促進」では、住宅資金として空き家改修費を支援し、入居希望者が増えました。また、移住の不安要素に「コミュニティに馴染めるか」が多いようですが、空き家改修を地域住民の協力を得て一緒にできれば、早く馴染めるようになるのではないのでしょうか。

南部町では町内会活動が活発です。私も清掃作業や小さな地区の祭りに参加したりしますが、和やかな温かさがあります。役場からは地域担当職員が地域の要望を伺い、早急に横断的に対応しています。その他、趣味のサークル活動もたく

プロフィール——工藤祐直（くどう・すけなお） 昭和30年（1955）、青森県南部町生まれ。明治学院大学法学部を卒業後、民間企業を経て旧名川町役場に入庁。その後、平成11年（1999）に旧名川町長に就任、平成18年に合併による新生南部町の初代町長に就任し、現在通算6期目。



さんあります。

住宅関連で言えば、若者向け住宅として整備した「チェリータウン桜場」は、剣吉駅前という好立地と、扶養する18歳未満のお子さん1人につき10%、さらに町外から転入する60歳未満の方は50%割引の特典があり、全39区画が完売しました。

今後、最も大切なのは人口減少をゆるやかにしていく、定常化していくことだと思います。それには住んでいる人々の満足度が肝心ですが、では、南部町の本当の魅力とは何でしょうか。

● 達者村コンセプト

南部町には農村としてのコミュニティの伝統、食文化や農耕習俗としての伝統芸能等々、大切な郷土の誇りが継承されています。その魅力を形にしたのが、南部町のシンボルでもあるバーチャル・ビレッジ「達者村」です。平成5年（1993）に旧名川町に始まったグリーン・ツーリズムを継承し、平成16年（2004）に開村した息の長い活動は、「おもてなしアワード2018」で県知事賞を受賞するなど、高く評価されています。

キャッチフレーズは、「友（ゆ）／つたり遊（ゆ）／つくり 農（の）／んびり」で、その土地固有な風土や住民のライフスタイルそのものに触れる喜びを感じてもらい、来



竣工した南部町役場新庁舎テラスで

訪者も地域住民も達者になろうという願いが込められています。やがてそれは確実に南部町ファンを育て、将来的な移住・定住につながっていくでしょう。

● 新しい人々と共に歩む

新型コロナウイルスの流行によって、テレワークやオンライン授業などが日常になり、「10年かかる変革が数カ月で進んだ」と言われるように、デジタル化する世界を加速させました。これを新たなビジネス機会ととらえ、販売形態を替えて成功する例も増えています。

ただし、グローバルな面と、私たちの身近

な暮らしの両面で、人間にとって何が大切なのかを改めて考える機会にすることが必要です。

私は常々、町政の基本は成長過程に従い、大きく分けて①教育（学び）②経済（仕事）③医療・福祉（社会保障）の3つを充実させることと思っています。木が芽吹き、幹が枝を張り、やがて豊かな南部の森になるような町政を心がけてきました。

ポストコロナでは、一過性ではない「新しい生活様式」を創造していかねばなりません。しかもそのレベルは新しい価値観の創造を視野に入れなければならないほどの、時代性を有するものです。今回の町勢要覧のメインタイトルは、『新しい人々』としています。本文では南部町の自然・土地柄、歴史や文化を守りながら生きてきた人々と、南部町を自分の居場所と定め、移住・定住してきた人々とのつながる姿を、「新しい人々（南部人）」として紹介しています。

私はそのような人々の郷土愛を誇りに、これからも心のキャッチボール対話をしながらか、共に歩んでいきたいと思っています。

移住のきっかけとその後

司会——町では人口減少問題を背景に、移住・定住促進に力を入れています（※1）。高木さんは移住して7年目ですが、その動機と、どのようにして移住したのかをお聞かせください。

高木——農業がしたいというのが最初にあつて、青森県内の主に県南地域を探していました。前に住んでいた八戸はヤマセがきつく、日照時間が短かったので南部町に移住することを決めて、そこから役場の人に連絡をして「住みたい」という話をしたり、友



↑ 自宅から車で5分ほど離れた梅林で草刈りをする高木さん夫婦。愛犬のクリとクマが何時も同行する

達の実家が南部町にあったので、そのお父さんをお願いして家を探してもらったり、とにかく知っている人脈を全部使いました。

司会——田中さんは南部町出身のご主人のUターンに伴ってこちらに来て、移住3年目ですか。

田中——6年前に結婚する時に、いずれは南部町に戻ると言われていたので、その時から東北に住むことはイメージしていました。当時住んでいた鳥取県で移住アドバイザーをしていたので、ここで吸収できることはいっぱい吸収し、楽しんで、ゆくゆくはそれを青森に持っていくのだろうなという気

「風の人」「土の人」という言葉があります。これは農学者・玉井袈裟男の「風土舎」設立宣言にあり、「人にも風の性と土の性がある。風は遠くから理想を含んでやってくるもの、土はそこにあつて生命を生み出し育むもの」と謳われています。

南部町には、この地に生き抜いた先人がその誇りを伝え、そして今、多くの夢を持つた風の人ややってきて、交流を深めながら、土の人が確かな足取りで動き始めています。「女性が元気なまちは活性化する」と言われ、また、地域ブランドに必要な「共創」は女性の方が得意とも言われています。

移住定住者は女性ばかりではありませんが、ここでは南部町にUターン、Iターンして活躍している女性に集まっていたとき、南部町の魅力や今後の希望などを伺いました。

移住女子座談会

花ある人々

高木有紀野／埼玉県和光市出身。大学卒業後、会社勤務を経て平成26年（2014）南部町に移住。平成28年（2016）から京都府出身の夫（克吉）と共に就農し「まめきち自然農縁」を運営。夫と長男（18歳）、次男（14歳）、三男（10歳）、四男（7歳）の6人家族。下名久井在住。



【座談会出席者】（五十音順）

高木有紀野（埼玉県和光市出身／平成26年Iターン／「まめきち自然農縁」を運営／青森なんぶ達者村ホームステイ連絡協議会メンバー）

田中 綾乃（兵庫県神戸市出身／令和元年Iターン／南部町移住者受入協議会メンバー）

田村 ゆに（北海道札幌市出身／平成28年Iターン／「自給自足実践フィールドうちみる」を運営）

武良亜友美（神奈川県横浜出身／令和2年Iターン／地域おこし協力隊員）

【司会】
村田 久（北の杜舎）

※令和3年5月26日収録

持ちでした。

司会——田村さんは結婚を機に移住され5年目になりますが、最初から農業には関心がありましたか。

田村——ここに引越すまで、農業はやってたことはありませんでした。でも食に対する関心は移住する数年前からありました。以前は東京に住んでいたのですが、都心部でオーガニックなものや健康にいいものを食べようとする、どうしてもコストがかかるんです。南部町なら畑ができるので、それなら自分で作ってみたいと思い、今やっているところです。

司会——武良さんは地域おこし協力隊として移住2年目ですが、南部町が日本語講



クルミの皮で作った籠。
ホームステイでの
体験メニューにもなっている



クルミの皮ハギ作業をする高木さん

自宅そばの園地で、四男と一緒に高木さん夫婦

師を求めていたことにマッチングしていらしたのですか。

武良——そうです。青森に来たのは、地域おこし協力隊の面接の時から初めてでした。母の出身地が岩手なので、こちらに来るのにそれほど抵抗感はなかったです。

田中——同じ下名久井にお住まいの高木さんにお聞きしたいのですが、私の家は住宅街から少し離れていることもあって、ご近

所付き合いうというとお隣さんぐらいなんです。ご近所の方たちとの距離感はどうな感じですか。

高木——子どもが小学校に行き始めると、急に広がりますよ。近所に同年代の子がいると、その家のおじいちゃんやおばあちゃんと交流したり、子どもが窓口になって広がりましたね。

田村——皆さんは、移住してから感じたギャップはありますか。私が初めて青森に行ったのは中学校の修学旅行の時、青森イコール奥入瀬溪流という感じで自然豊かなところだと思いました。人生2回目の青森が南部町で、自然豊かなイメージは変わらなかったのですが、実際に住んでみると八戸が近くて、車ですぐに行けるスーパーがあつて、生活するのに便利な場所だと感じました。

高木——慣習が全く違いますよね。ものの考え方が、都市部と農村では根底的なところが違うので、初めの3年間はかなりアップダウンの繰り返しという感じでした。私たち夫婦は都市部の出身で、農村というものを全く知らなかったんです。5年目ぐらいから落ち着いてきましたね。

田中——八戸が近いというのは大きいと思います。南部町の近くに大きな町がなかったら、1年持たなかったかもしれません。普段住むには南部町の環境はほどよく、だから住んでいられるんだと思います。



花ある人々

移住女子座談会

移住の支援策とベッドタウン化

司会——南部町では移住者向けに、仕事と暮らし支援として、新規就農者支援、空き家・空き地バンク等利活用促進、若者向け住宅環境整備（チェリータウン桜場宅地分譲住宅分譲事業）、新婚新生活支援事

業、移住・定住等イベントの取り組みなどを実施しています。また、2軒のおためし住宅も整備しました。移住する際に町の支援策を利用された方はいますか。

田中——「空き家バンク」（※2）と「お試し住宅」を利用しました。空き家バンクで見つけた物件は修繕が必要な状態だったので、改修期間の1カ月間、お試し住宅に住まわせていただきました。

司会——田中さんは南部町移住者受入協議会のメンバーですね。

田中——メンバーは10人ぐらいで、割と年代は幅広いです。昨年度は武良さんも一



トマトのわき芽摘みを子どもに教える広大さん

緒に活動しました。任期が2年なのですが、2年に入れ替わるのは良くないのではないかと、という意見が昨年度の反省として出て、O・B・OGという形で関与して情報を伝えていく方がいいのかなという話しています。

司会——田村さんはご主人と一緒に「自給自足実践フィールドうちみる」を運営し、環境に配慮した実践をいろいろされていますが、町の移住・定住対策と連携してやったことはありますか。

田村——それはいいです。夫は「うちみる自給自足スキル講座」で、廃材を利用して小屋を建てる全8日、16講座を開講しましたが、家づくりの経験があったわけではなく、独学で学んできました。スキルはたぶん上級編なんですけど、すぐく意欲が高いとか、別の地域である程度DIYぐらいは自分でやっていたという人に、引越して来た段階で教えることは可能です。でも、それをきっかけにして移住者を増やすというのは難しい気がします。

司会——武良さんは移住者目線での情報発信など、考えていることはありますか。

武良——私の場合は外国人とのネットワークがあるので、首都圏に住んでいる外国人をこちらに呼ぶという活動を、協力隊の期間中にやりたいと思っています。フェイスブックに南部町の景色をよく載せていますが、「私の国と同じです」と言ってくれる人は多いですよ。



ハウスの脇の道路を歩く
田中さん家族

司会——国の支援策とともに南部町の新規就農者支援(※3)は手厚いのですが、皆さんは利用されましたか。

高木——町独自のものではなく、国の事業は利用しています。

司会——チェリータウンは町外からの転入者で60歳未満の方は50%割引など、さまざまな優遇対策をしています。

高木——移住という点、どうしても農業に集中しがちですが、南部町は本当に立地がいいので、ベッドタウンとしての移住者を誘致するというのは重要なことだと思います。チェリータウンは剣吉駅前であり、安くて、非常にいい施策だと思います。子どもが来ないと人口は増えませんから。



畑の傍を流れる馬淵川土手を散歩する
田中さん家族。
背後に名久井岳が見え、
町民の散歩人気スポットでもある



ミニトマトの
ビニールハウス前で
田中さん家族4人

田中 綾乃／兵庫県神戸市出身。大学卒業後、鳥取県に居住し、鳥取県移住アドバイザーに就任。令和元年(2019)南部町出身の夫(広大)と共に同町に移住。夫と新規就農する。夫と長女(6歳)、長男(3歳)の4人家族。下名久井在住。



田中——チェリータウンには小さいお子さん連れで移住されている世帯が多くて、ご主人の職場が八戸で、奥さんが仕事をされていないご家庭もあります。今年はトマトの収穫にチェリータウンのママが数名来てくれることになりました。私たちはこれから、そういうつながりができると思っています。

司会——ベッドタウンでは新旧住民の交流が難しいという話も聞きます。

高木——子どもを持った家庭では農業体験をさせたいし、日中に時間のある主婦は農家の手伝いをしたい人もいます。また、子どもがいれば学校を窓口にして交流ができ、新旧の人間関係の風穴になるのではないのでしょうか。

子育てについて

司会——町の子育て支援策(※4)に関してはどうですか。

高木——家計的に助かったのは小中学校の給食費無料ですね。あとはチェリーこども園の「ぴっぴクラブ」を利用させてもらって、そこで会ったお母さんと友達になったりしました。

田村——「ぴよすくーぽん」を毎月使わせていただいています。子育て支援センターには、子どもが1歳を過ぎた頃、近くの福祉こども園に何回か遊びに行かせてもらいました。

田中——「ぴよすくーぼん」は使い方の制限が多くて買えるものが限られていた

のですが、最近使えるものの対象を広げて、使いやすくなったようです。医療費は、子どもが元氣過ぎてケガをして病院に行く機会が多いので有り難いです。給食費も助かっています。

司会——南部町では令和2年度（2020）から、妊娠から子育てまでワンストップで支援する子育て世代包括支援センター「ぴよすく」を開設しています。

高木——乳幼児教育は重要です。そういう意味で「ぴよすく」はいい試みだと思います。

田村——子育てのことを気軽に相談できる窓口とか、子どもを安心して遊ばせる場所があっても、24時間開いているわけではないので、自分たちが困った時に頼れるオープンな場所があるとうれしいですね。ちゃんとした場所じゃなくていいので、いつでも好きに遊んでいい場所がいっぱいあったら、伸び伸び育児できるんじゃないかと思っています。

司会——三戸駅前のカフェ「南部どき」には、オーナーの根市大樹さんの考えで、2階に広いキッズスペースがあります。絵本なども置いてあり、地域住民に開放しているそうです。

田中——昨年度の南部町移住者受入協議会の最後に出た話題なのですが、こういうことがあったら面白いのに、とか、町の中

でこういう機会があればいいなと思っていても、場所を用意することがハードルになっていて、それなりに人が集まれる場所を借りるとなると、そのお金は誰が出すかという話になるんです。そこを乗り越えられれば、中身の部分でやってみたいことが結構いろいろあります。そこを役場の方にちよつと手伝ってもらって、この助成金を使えるよとか、ポケットマネーを出さずにやりたいことがやれるようになったら、選択肢が増えます。役場の方からは「役場をうまく使ってくださいね」と言われて、今後の展望が見えつつあるねと夫婦で話していました。



田植え途中の田んぼの前で、夫・長男・母・祖父と一緒に

ライフスタイルについて

司会——高木さんは、農福連携について考えはありますか。

高木——うちはそんなに土地があるわけではないですが、農地を維持していくことは大事なことで、福祉の力を借りるのは一つの方法だと思います。「まめきち自然農縁」の今後としては、手に負える範囲で、もう少し整理していくことが一つと、ホームステイを柱として大きくしていきたいです。

司会——田中さんは大学でアートを学んだまちづくりを学んだそうですね。

田中——「アーティスト・イン・レジデンス」といわれる事業なのですが、アーティストが滞在できる拠点づくりやその運営を学生時代にやらせてもらっていました。外から人を呼んで、変わったことをしてもらって、地元の子どもたちにもこういう世界があるんだとか、普段とちよつと違う文化的な体験をさせたり、地域の人が地元を再発見するきっかけをつくったりすることが目的でした。

司会——移住・定住がテーマというより、イベントですね。

田中——そういうイベントがあるところ、面白いことをやっているところに住みたいという人もいますから、拠点があるからと移住される方もいました。私たち夫婦には、全国を回ってそういう活動をされているアーティストを自分たちの畑に呼びたいとい

花ある人々



沢水を運んで長男と一緒に
野菜に水やり

う思いがあつて、実際にやりとりもしています。もう少し環境が整つて、次のステップに行けたら、こういう面白いことがあるよと、南部町のお子さんたちに体験してもらいたいです。農業はできる時にやりつつ、町内のキーパーソンとなる人たちとつながりを持ちながら、自分のやりたいことを、外に出てやっていきたいと思っています。

司会—— 田村さんは自然と一体になって

農業がしたいという気持ちが強いですか。

田村—— 自然の中を間借りして、人として

生きていくという感覚が強いです。先ほどの移住・定住の話で、人口を増加させるために町はいろいろやっていますが、最小単位は個人だと思うので、幸せな個人が増えていけば、それに連動する人も増えてくるだろうし、単に数字を追いかけて、数字が増えればいいわけでもないと思います。私の考え方として、自分自身が幸せな暮らしを追求した結果、パーマカルチャー(※5)とか自然に寄り添った暮らしに至りましたが、幸せの形は人それぞれ違うと思うので、南部町に移住してきた人が、自分なりの幸せの形を見つけて、南部町がそれを実現できる場



ゼロ・ウェイスト（ごみを出さない）の一環で、スズタケで自作した「子供竹ストロー」を使う長男

基本的にはオフグリッドのため2枚のソーラーパネルで自家発電している。後ろの自宅は廃材を利用した余一さんのセルフビルド

田村 ゆに／北海道札幌市出身。高校卒業後、東京生活を経て、平成28年(2016)南部町に移住。同町出身の夫(余一)と共に「自給自足実践フィールドうちみる」を運営。竹ストローWEBshopをオープンする。夫と長男(2歳9カ月)の3人家族。坩渡在住。



所であつたらいいんじゃないかと思っています。

司会—— お子さんも自然が大好きなようですね。

田村—— そうですね。今のところは、この暮らしだからこそ教えられることを子どもに伝えていきたいし、自分自身も移住してきてまだそんなに経っていないので、この場所のできる学びを深めていきたいです。親として子どもに伝えるべきことを伝えた後、彼がどういう選択をしていくかは関与しないつもりです。私は都会から来て自然に寄り添った暮らしをしたいと思いますので、その逆もまたあると思いますから。

司会—— 武良さんはどのようにして日本語教師になられたのですか。

武良——働きながら、2年ぐらいかけて日本語教師養成講座に通いました。

司会——この仕事は一生やっていきたいと思えますか。

武良——そうですね。最初は日本語教師になろうとは思ってなくて、日本語を客観的に勉強できたらいいなと思って始めたんです。日本語学のほか歴史や文化、心理学などの教授法も学びました。今は人に教えたり伝えたりすることが面白いと分かりました。どこが面白いかというと、異文化や異なる価値観の人々に同じ日本語を教えるのですが、日本人とは違って、みんなどんな声をかけるんです。「先生、これは違う」とか普通に言われるので、そういうところがすごく面白いです。

司会——外国人の方はどんな日本文化に関心を持っていますか。

武良——今はアニメです。しかも「ドラえもん」ではなくて、「鬼滅の刃」とか、今やっているものなんです。私はアニメを見ないので、逆に教えてもらっています。

南部町の魅力や交友関係について

司会——南部町の魅力はどんなところですか。

高木——一つは気候がよく、過ごしやすいということです。古い文化が残っている点でも、他の地域を凌駕していますよね。子

武良亜友美／神奈川県横浜市出身。大学卒業後、日本語教師資格を取得し、日本語学校に勤務。令和2年(2020)地域おこし協力隊として南部町に着任。同町に在住・勤務している外国人を対象に、国際交流センターを拠点として日本語教室の講師を務める。剣吉在住。



南部町国際交流センターにある日本語教室で授業をする武良さん。町内外在住の技能実習生などの外国人を対象に、日曜日、月2回程度レクチャーしている

どもが中学校でえんぶりを踊っているのですが、えんぶりに関わっている人の割合がすごく多いんですね。あとは、便利ですね。都市部の人が引越してくるには、南部町はバランスのいいところです。無理なく暮らすことができます。

田中——今の時点では、南部町への移住を考えて外から見に来た人に、あまり魅力を伝えきれないと思うんです。住んでみないと分からない魅力があるので、私もそうですけど、住んでいる人がそこをすくい上げ、PRできるようになればいいと思っています。そういう意味では、まだやっていないことがいっぱいあるから、余白、伸びしろがあるところが南部町の強みであり、魅力かなと思



日本語を、
口頭とホワイトボードを使用した
文字で伝える武良さん

【参考資料】

※1 人口減少と移住・定住意識／南部町では、平成23年（2011）4月現在20,751人（男性9,957人／女性10,794人）だった総人口が、令和3年（2021）4月現在には17,480人（男性8,311人／女性9,169人）と、10年間で3,271人も減少しています。ただし令和元年度（2019）は「南部町まち・ひと・しごと創生総合戦略」での目標人口16,859人に対し16,853人と、近年は移住・定住対策が一定の成果を上げています。また、令和2年（2020）の内閣府の調査では、東京都内に住む20代の35.4%、首都圏（1都3県）に住む20代の27.7%が、地方移住に関心が高まったと回答しています。

※2 空き家・空き地バンク／平成30年度（2018）の南部町空き家等実態調査の結果、住宅用（一般住宅）は365棟、非住宅用（店舗・事務所・倉庫・工場など）は47棟の合計412棟の空き家が確認されています。ただし、老朽度・危険度判定がA～Eランクまであり、その結果、「A 小規模の修繕により再利用が可能」は、住宅用が202棟、非住宅用が27棟の合計229棟でした。また、令和3年（2021）7月26日現在の空き家・空き地バンクについて、登録されている貸出及び売却希望件数は空き家13件、空き地23件で、利用希望件数は28件となります。このうち、令和2年度（2020）の新規登録は、空き家2件、空き地7件となっています。

※3 新規就農者支援／国と町の補助金制度があります。南部町からは、補助対象者を①新規学卒就農者②離職就農者③新規参入者④町内にUターン、Iターンした新規参入者の4つに分け（各定義省略）、「補助金額」＝30,000円／月（※U、Iターンした新規参入者は20,000円／月）、「補助期間」＝農業開始から3年間（※ただし、年度は遡りません）、「支給条件」＝町内在住者で事業交付期間終了後3年以上就農、となっています。

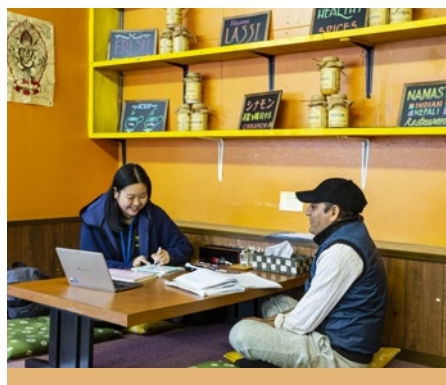
※4 子育て支援／南部町が行っている子育て支援策は、「0歳から24歳までのトータルサポート」です。主な支援は以下のとおりです。

- ① 0歳から2歳児まで…子育て用品助成券「南部町びよすくーぼん」5,000円分を毎月給付（令和3年から保清・衛生・知育関連用品を追加）
- ② 3歳児から5歳児まで…幼稚園・保育所・認定こども園の利用料が無料
- ③ 小・中学校に在籍し町内に住所がある児童・生徒…給食費・コミュニティバスが無料
- ④ 0歳から高校生年齢相当まで…医療費が無料（所得制限があります）
- ⑤ 奨学金貸付制度…高等学校以上の学校に在籍し、経済上の理由で修学が困難と認められる場合に、奨学金を無利子で貸付（条件により2分の1償還免除）
- ⑥ 医師修学資金貸付制度…医師を目指す学生に対して最高1,080万円の修学資金を貸付（条件により全額償還免除）

※5 パーマカルチャー／パーマナント（永続性）、アグリカルチャー（農業）、カルチャー（文化）を組み合わせた言葉で、人と自然が共に豊かになるような関係を築いていくためのデザイン手法。

います。地元志向になってUターンする人は、面白いことが起こっていれば、外でいくらいろんなものを見ても帰りたいと思うので、そういう魅力づくりを今からやっていくことが大事だと思います。

田村——南部町には素敵な魅力を持った人が多いので、すぐ仲良くなれる人がいれば、そこに引越してきたいと思う動機づけになると思います。そういう人を発掘して、個人にフォーカスしてみるのもいいのでは。自分から手を挙げて「私、面白いです」という人はいないと思うので、それを町が取り上げるとかして、人ありきの町、という



南部町沖田面でレストラン「Namaste Dining」を営むネパールのバタ・ホーム・ナトゥさんに、日本語を出張授業する武良さん



レストランでバタ・ホーム・ナトゥさんとバタ・サンタさん夫妻と一緒に

良さにつながっていいと思います。

武良——私が南部町に来て思ったことは、「こんなに落ち着いて生活していいんだ」ということでした。役場の方や地元の方には、ここでの暮らしは車がないと不便だよとずっと思われていて、確かに大変だし、面倒くさいと思うこともありますが、私は歩くのが好きで、畑や田んぼが近くにあると、今日はこれだけ伸びているとか、今だと田んぼに水を張っていきいだなとか、そういうことを感じるのが楽しいです。私の使命という大げさですが、そういう目線を地元の方に伝えられたらいいのかなと思っています。

司会——今日は、楽しく有意義なお話をたくさんしていただきました。長時間、有り難うございました。



シビックプライド

『花は山、人は里』を訪ねて

『花は山、人は里』とは、

「ものにはそれぞれふさわしい場所があり、ものを求めるならば、

そのものが当然存在する所を探さなければならない」という諺ことわざです。

ここでは、南部町の3つの旧町村地区の歴史・文化・景観や、

そこで活動する人々を訪ね歩いてみました。



「南部小富士」とも 称される名久井岳

国道4号から平野越しに望む名久井岳は、町を見守るかのように裾野を広げ、雄大にそびえています。複数の小山が集まった起伏山地で、標高615メートル。端正な姿から「南部小富士」と称され、古くから人々の信仰を集めてきた霊峰でもあります。

自然と触れ合い、心と体の健康づくりの場としても、名久井岳に愛着を持つ人は多くいます。一年を通して県内外から多くの登山者が訪れるのは、名久井岳が比較的登りやすい山であるだけでなく、四季を通して人々を引きつける魅力があるからなのでしょう。名久井岳登山会（久保久夫会長）では、約40年前から毎月1回の早朝登山を欠かさず続けています。山頂までは東側の法光寺から約1時間、五

シビックプライド

『花は山、人は里』を訪ねて

①

名川地区／果樹のまちを 不動のものに



果樹園から名久井岳を望む



名川南小学校の名久井岳全校登山



法光寺の千本松（県天然記念物）



法光寺三重の塔「承陽塔」

合目駐車場から約30分で登ることができます。山頂からは、360度の眺望。町を貫く馬淵川と周辺の田園風景、階上岳、久慈平岳、八戸市街と太平洋、八甲田連峰、遠くは岩手山まで見渡すことができます。

糠部三十三観音 第十九番札所の法光寺

信仰の山・名久井岳の東麓にある法光寺は、鎌倉時代に開かれたとされる名刹です。寛保3年（1743）に天聖寺（八戸市）の則譽守西上人が定めた糠部三十三観音巡礼の十九番札所でもあり、千手観音が祀られています。参道沿いには、約500メートルにわたって見事なアカマツ並木が続きます。延宝4年（1676）に、修行の一環で12代住職が小僧たちと般若心経を唱えながら苗木472本を

植えたとの記録があり、以前から植えられていた松と合わせると千本近くになることから「千本松」と呼ばれるようになったといわれています。

昭和33年（1958）には、樹齢300年、樹高約20メートルのアカマツ23本が県の天然記念物に指定されました（現存は14本）。令和2年（2020）には、松並木の歴史的背景と、地域住民からの高い関心が評価されて23本が追加指定。合計37本が指定されています。歴代住職が思いを受け継ぎ、地元有志の保護団体「法光寺千松会」が手入れをしてきた法光寺参道松並木は、長い年月をかけて守られ、地域の宝ともいえる景観を創り出しています。月見橋を渡り、石段の先にある山門をくぐると、本堂が姿を現します。本堂の裏手には、高さ33メートル、縦横8メートルの承陽塔。曹洞宗開祖である道元禅師の遺骨を安置するために建立され、昭和24年（1949）に竣工し



名川チェリリン村のオートキャンプ場で開催された「CHERIRIN CAMP 2020」でのテントの設営講座

ました。戦後に建てられた木造の三重塔の中では国内最大級の規模で、平成29年（2017）に国の有形文化財に登録されました。

チェリリン村とフルーツ街道

名久井岳の麓にある「名川チェリリン村」は、キャンプ場やスポーツ施設などが整備されたレジャースポットです。令和2年（2020）9月に南部町初のキャンプイベント「CHERIRIN CAMP 2020」が開催され、テントの設営講座や木工体験、キッチンカーのイベントなどで賑わいました。10月には屋外映画イベント「ナイトシアター」が初めて開催され、町の新たな文化の発信地になっています。

名川チェリリン村から坂を下っていくと、沿道に果樹畑や観光農園、果樹直売所が点在し、



名川チェリーセンター

果樹栽培が盛んな名川地区らしい景観を見ることが出来ます。毎年5月には、色とりどりの果樹の花を楽しみながらウォーキングする「果樹の花見散策ウォーク」も開催しています。

このフルーツ街道を抜けた先にあるのが、「名川チェリーセンター」です。四季折々の果物や新鮮な野菜、お菓子やジャムなどの加工品などを取り揃え、多くの買物客が訪れる産地直売所ですが、6月末から7月中旬のサクランボ収穫期は特に混み合います。南部町のサクランボ生産量は、青森県内一。令和2年（2020）には青森県オリジナル品種の「ジュノハート」が、研究・開発から20年余りを費やし、ついに全国デビューしました。大玉で、甘く、愛らしいハ



学校給食でジュノハートを手にする名久井小学校児童

ト型の果実が特徴のジュノハート。ブランド化に向けて、挑戦はさらに続きます。

「はばたく商店街30選」に 選ばれた剣吉商店街

青い森鉄道「けんよし剣吉駅」を出てすぐの通りにある剣吉商店街。明治30年（1897）に開設された剣吉駅が、人や物資の行き交う交通拠点として活気づくのに伴い、剣吉商店街は名川地区の経済の中心地として発展してきました。創業80年、デマチ呉服店5代目の出町州央さんは「商店街の売り出しの日、買物客でごった返したそうです」と、親世代から聞いたかつての賑わいぶりを説明します。

少子高齢化や人口減少、大型小売店の進出などの問題に直面する



剣吉商店会会長の出町州央さん（デマチ呉服店で）



NPO法人「三本の木」の農援隊と林悦子理事長（前列右から3番目）、関則雄管理者（3列目右側）

中、剣吉商店会では地域の団体と連携しながら、商店街活性化の取り組みを行ってきました。剣吉地区の4つの町内会と「緒に開催する夏まつり、名久井農業高校との緑化活動」、「剣吉ストリート活性化委員会」（商店会役員と町内会の会長が平成22年4月に設立）とのウォーキングイベント開催やマップ作成など、さまざまな団体とともに展開する活動は高く評価され、平成28年（2016）には経済産業省の「はばたく商店街30選」に選ばれました。剣吉商店会会長を務める出町さんは、「住民それぞれが自分の役割を持ち、みんなで「緒



南部地方えんぶり（2月上旬）で、剣吉商店街を練り歩くえんぶり衆

シックブランド——『花は山 人は里』を訪ねて ①
名川地区／果樹のまちを
不動のものに

に地域をつくることが大事。さまざまな世代が支え合いながら、安心して元気に暮らせるまちづくりを目指します」と話します。

NPO法人「三本の木」の 農福連携と地域づくり

農業分野と福祉分野が連携し、双方の課題を解決する「農福連携」の取り組みが注目されています。平成24年（2012）に設立されたNPO法人「三本の木」は、農業を軸とした事業運営を行い、障がいのある人の自



南部七唄七踊り全国大会（9月下旬）



南部芸能伝承館で三味線を弾く久保一繁さん
（達者達人／南部町郷土芸能保存会会長）

名川地区略図



名川発祥の「南部手踊り」や 伝統芸能の数々

立や就労を支援しています。近隣農家70人を会員とした直売所「おやさいの集会所」の開設、人手不足の農家の農作業を手伝う「農援隊」、後継者のいない農地を借りて果樹や野菜を栽培したり、ドライフルーツを使った焼菓子やジャムなどの加工を行ったりしています。また、名久井農業高校の生徒が自分たちの栽培した野菜を直売所で販売するイベントを週1回行い、地域の教育にも貢献しています。

理事長の林悦子さんは「地域を元気にする力になりたい」と思いながら、事業に取り組んできました。それが農福連携につながったと思います」と笑顔を見せます。また、果樹栽培で尽力する管理者の関則雄さんは、「農家の高齢化や遊休農地の面積拡大が進んでいます、いずれはベリーファームを事業の大きな木に成長させたい」と、熱意を込めて語ってくれました。

名川地区が発祥の地とされる「南部手踊り」は、「南部甚句」「南部あいや節」「南部よされ節」「南部馬方三下り」「南部追分」「南部荷方節」「南部都々逸」の七つの踊りがあり、「南部七踊り」とも呼ばれています。数百年以上も前から受け継がれてきた民舞踊ですが、もともとは宴席を盛り上げるための踊りで、決まった形はありませんでした。明治初期、歌舞伎の動作を取り入れるなどして舞台用の踊りに仕上げたのが、名川地区剣吉生まれの栗山由太郎です。大正時代には、由太郎の弟子である館松榮源次郎らが師匠の踊りに磨きをかけ、一つひとつの踊りを完成させました。

その後、南部手踊りは全国的な広がりを見せ、「南部手踊り（七踊り）」と「南部七大民謡（七

唄）」は、町の無形文化財に指定されています。

南部町郷土芸能保存会会長の久保一繁さんは、南部三味線の奏者を代表するひとり。「若い頃はギターに夢中でしたが、母親が南部手踊りの踊り手で、芸能が身近だったことから久保正幸さんに師事し、昭和33年（1958）頃から三味線を始めました」とのこと。秋の恒例イベントとなった「南部七唄七踊り全国大会」でも伴奏を務める久保さんは、「南部手踊りはリズムが速くなるところが何カ所かあって、そこがおもしろいね」とも明かしてくれました。

南部手踊りのほか、数々の伝統芸能が根付く名川地区。名川中学校では、地域ぐるみで「えんぶり」の伝承活動に取り組んでいます。三味線演奏の講師として20年以上も生徒を指導している久保さんは、「若い世代の継承者を育てたい」と話し、地域の芸能が絶えることなく受け継がれていくことを願っています。

ながく愛される庁舎 南部町新庁舎の完成

これまでの経緯

新たに建設された南部町新庁舎は、平成28年（2016）6月から7月にかけて、役場庁舎のあり方に関する町民アンケート調査を実施し、その後、建設用地検討委員会、庁内検討プロジェクトチーム、庁内検討会議、建設委員会設立を経て、平成30年（2018）には統合庁舎建設基本計画書を策定しました。

さらに同年5月には基本・実施設計業務プロポーザル選定委員会を設立し、8月に業務の設計者を特定。10月から11月にかけて町民ワークショップを開催するなどして、平成31年（2019）1月に基本設計が、令和元年（2019）5月に実施設計が完成。11月18日には地鎮祭を行って本体工事に入り、令和3年（2021）3月19日に竣工。同年8月2日、無事に開庁の日を迎えました。

建設の理念・方針

基本理念は、『質の高い行政サービスを提供できる 高齢者から子どもまで誰もが安心して集う まちづくりの拠点』とし、基本方針は「1. 気軽に立ち寄り利用しやすい

新庁舎外観とプロムナード／町内にある古民家や南部曲がり屋にみられる漆喰壁と、城下町の近代化により多くみられたレンガ壁をモチーフとした外観デザイン。プロムナード（屋根付通路）は、雨雪から歩行者を守るだけでなく、ベンチを設け、休憩や立ち話など気軽に利用できるようになっている。また、車寄せとして一般車両のほか、路線バスや多目的バスにも対応している



いちよう広場／高さ20mのシンボリックなイチョウの樹は、新庁舎のランドマークにもなっている

1階窓口／1階には町民の利用頻度の高い窓口を集約し、利便性を高めている

「1. 効率的で機能性の高い庁舎」
「2. 環境に配慮した安全な庁舎」
「3. 環境に配慮した安全な庁舎」
「4. 町民が誇りと愛着をもてる庁舎」の4点を掲げています。

また、設計方針は、『地域がつながり、町民がつながる、集う^くながく愛される庁舎^をを目指して』とし、「1. 南部町の風土に根差した町民と共に^くながく愛される庁舎^を」
「2. コミュニティが生まれる町民広場」
「3. ユニバーサルでフレキシブルな庁舎」
「4. 人と人をつなぎ、まち育ての起点となる庁舎」の4点を掲げました。

建物の特徴

1 地域に根づく木々を囲んで建つ庁舎

ながくこの地域の人々を見守ってきたトチの樹や桜の並木、高さ20mのシンボルツクイチョウの樹を残し、庁舎に取り込むことで、この地域の歴史や風土を感じられる庁舎を目指しました。

2 南部町の風土によりそった

コミュニティのうまれる庁舎

庁舎と地域交流施設を「いちょうロード」でつなぎ、いちょう広場、並木のある町民広場を取り込むことで、様々なアクティビティを創出する空間を目指しています。

さらに、芝生の町民広場の周辺は屋根のあるテラスやプロムナードで囲み、散歩や休憩、軽運動など気軽に利用できる空間としました。

3 人と人をつなぎ、まち育ての

起点となる庁舎

庁舎と地域交流施設を70mの「いちょうロード」でつなぎ、展示や多様なイベント、町民の情報発信や交流の場としました。2階には開放感のあるガラス張りの会議室、3階には名久井岳を望むことができる広々としたテラスを設け、自然に交流やにぎわいが生まれる空間が随所に設けられました。

4 南部町の歴史や風土を

感じられるデザイン

レンガ、南部アカマツ、コンクリートの素材を活かしたデザインで風格をもたせ、南部町の歴史や風土が感じられ、並木やイチョウの樹と調和する計画としました。

5 負荷低減に配慮した快適な庁舎

高気密、高断熱、高効率な機器を採用、



いちょうロード／庁舎と地域交流施設（いちょうホール・実習室・町民室・和室など）を結ぶ70mの通路



3階展望テラス／南西方向に名久井岳を望む展望テラスは、町のPRスポットにもなるように計画されている



いちょうホール／遮音性に優れた可動間仕切りにより、2分割利用も可能



2階庁議室から下の吹き抜けを望む



3階議場／議場内の腰壁に県産材の南部アカマツを使用

冷暖房負荷の低減を図りました。また、季節ごとの卓越風を考慮した平面形状と開口部の配置を行い、「いちょうロード」の上部にはバランス式自然換気窓を設置、煙突効果を利用した自然に空気の流れる空間をつくるほか、執務室には輻射式床冷暖房システムを導入することで、空気のムラ、ドラフト感を低減し、快適な環境づくりを行っています。ほかにも、動線や平面、景観・立面防災、環境配慮など、細部に至るまで緻密な設計・施工がなされました。

東北中世史を書き換える 聖寿寺館跡

室町・戦国時代（15世紀前半～16世紀前半）、北東北で最大の勢力を誇った三戸南部氏の居館があった場所が「聖寿寺館跡」です。聖寿寺館は奥州街道と鹿角街道の合流点近くに築かれ、館の東側の堀底は奥州街道として利用されました。さらに南側には馬淵川が流れ、水

陸両交通の要衝に立地していたことが分かります。第24代当主・南部晴政治世の天文8年（1539）、家臣の放火により焼失し、居城は三戸、福岡、盛岡へと移りました。南部町では平成5年（1993）から聖寿寺館跡の発掘調査を開始し、三戸南部氏の強大な勢力を示す遺構や遺物が次々と発見されています。中でも令和2年度（2020）の調査では、従来の想定を覆す大発見が相次ぎ、

シビックプライド

『花は山、人は里』を訪ねて

②

南部地区／南部町の ルーツが眠る



奥州街道と八戸街道の分岐「追分石」



聖寿寺館跡をガイドする坂本瑞男さん（達者達人／南部屋形聖寿寺館ガイドの会会長）



正寿寺にある南部利康霊屋（国重文）



「歴史の道100選」に選ばれた奥州街道

祝祭の場「畑福」と 恵光院

新たな歴史の解明に関心が寄せられています。「南部屋形聖寿寺館ガイドの会」会長の坂本瑞男さんは、「教科書には載っていない三戸南部氏の暮らしや繁栄ぶりを知ってもらいたいのです。そして、次の世代にその誇りを伝えることも、我々の使命だと思っています」と力を込めます。町では地域の小学生を対象とした体験発掘や奥州街道ウォーク、研究者を招いて郷土の歴史や伝統・文化を学ぶ講座を開催するなど、貴重な歴史遺産の保護や継承、町の魅力発信につながる取り組みも積極的に行われています。

霊峰・名久井岳を間近に望む南部町には、山岳信仰が根づいています。古くから農業が

『南部町史』に、興味深い記述があります。「畑福（ハタフク）」という名の場所が複数存在し、いずれも恵まれた農地であること、「畑福」は「旗鉾（ハタホコ）」とも言い、神を招く目印となるハタを、ホコ（棒の古語）の先端に結びつけ、それを立てて神事を行ったことから、祭をした場所を示しているというのです。



「馬の里」から
「菊の里」へ

A photograph of a small, simple stone structure, possibly a shrine or marker, standing in a grassy field. The structure is made of light-colored stone or concrete and has a small, dark, rectangular opening. It is surrounded by green grass and some low-lying plants. In the background, there is a dense forest of tall, thin trees. The overall scene is peaceful and natural.

A vibrant garden scene featuring large, blooming pink and white peonies in the foreground. In the background, a traditional Japanese pavilion with a dark roof is nestled among lush green trees and a hillside covered in yellow flowers.

たことでしょう。現在は山林になっていますが、牧野を囲む土塁や堀が今も残っています。

かつて良馬を育んだ相内地区は、菊の里としても知られていました。一説によると、江戸時代に南部藩主が京都の九条家から観賞用として「阿房宮」あばうきやうを株分けしてもらい、南部町に植えたのが始まりと伝えられています。菊の花は霜に当たると変色するため、初霜が降りるのが他の地区より遅い相内地区で盛んに作られるようになったのです。

食用菊としての阿房宮は香りと甘みがあり、しやしやしきとした食感が特徴で、天ぷらやおひたしなどいろいろな料理に用いられます。生食のほか、蒸して乾燥させた干し菊もあり、一年中食べられます。近年は生産者も生産量も減少していますが、収穫される10月下旬から11月上旬には、畑の一角が黄色に彩られた風景を、所々で見ることができます。

「阿房宮窯」と 地域とのつながり

阿房宮の主産地である相内地区に、「阿房宮窯」と名付けられた陶工房があります。窯元の沼畑優さんが自宅敷地内に工房を構えたのは、30数年前。地元になんだ焼き物の創作を志し、阿房宮の茎の灰を加えた釉薬で作品作りを始めました。少し緑がかった素朴な色合いの焼き上がりが特徴です。

沼畑さんの親は食用菊栽培を中心に手がけ

シビックプライド——『花は山、人は里』を訪ねて—— 南部地区／南部町の ルーツが眠る



相内の食用菊「阿房宮」畑。
集落から約2kmの山中に南部九牧の相内野があった



「阿房宮窯」の作品と沼畑優さん



杉澤均和さん（「南部太ねぎ」生産者）



南部町営地方卸売市場での「なんぷりんご市」

伝統野菜「南部太ねぎ」の 復活

ていたそうで、収穫期には住み込みで作業する人たちがいました。手伝いに来た人たちが寝泊まりしたり、花びらをむしる「菊ほかし」をしたりするのに使っていた宿泊兼作業場が、今は創作活動の場となっています。

作品作りに加え、陶芸教室で地域の人と交流し、土を通してふるさとの自然や文化に触れる機会も提供している沼畑さん。「土いじりなら、子どもからお年寄りまで気軽に楽しめます。焼き物で町を元気にできたらうれしい。それが、私が焼き物を始めた最初の目的です。から」と、活動の原点にある思いを語ります。

南部町の伝統野菜「南部太ねぎ」は、大正時代に地元農家によって栽培が始まり、昭和

39年（1964）に品種登録されました。太いもので白根の部分が直径3センチを越え、長さも1メートル前後まで育ちます。緑の葉の部分まで柔らかく、糖度が高いのが特徴です。けれども、栽培に手間がかかり、サイズも不揃いで流通に乗らないことなどから、生産者は次第に減少していきました。

絶滅の危機を救ったのは、地元の名久井農業高校の生徒たちでした。平成24年（2012）、町内にただ1人残っていた生産者から種を譲り受け、試験栽培を始めました。その取り組みに共感し、南部太ねぎの復活に乗り出したのが杉澤均和さんです。栽培に挑戦して3年目にやっと出荷できるようになり、現在は4人の生産者とともに生産を拡大していくため、高校生たちと新しい栽培方法を研究したり、地域の小学生の定植・収穫体験に協力したりと、日々奔走しています。



三戸駅前の盛期を象徴するような村井家住宅主屋。
大正12年（1923）に竣工した大正モダニズムの
和洋折衷住宅（国有形文化財）

杉澤さんは「収穫したての南部太ねぎの葉からは、玉状の露が滲み出てきます。その味は想像以上の甘さ。糖度は一般的なネギの1.5倍以上です。南部太ねぎのおいしさを多くの人に知ってもらいたい。そして、子どもたちにとって南部太ねぎが町の自慢となるように、100年先も栽培が続くようにがんばりたい」と、次世代へつなぐ決意を語ります。

三戸駅周辺の 今昔

明治24年（1891）に開業した三戸駅（当時は三ノ戸駅）は、リンゴをはじめとする農産



カフェ「南部どき」の根市大樹さんと家族

物や木材などの重要な輸送拠点でした。昭和初期になると、農家が果物や野菜を持ち寄り、駅付近で行商人に売りさばくようになり、昭和24年（1949）には駅前広場に旧向村が運営する相対売り市場が開設されました。この市場が、全国で唯一となった公営市場「南部町営地方卸売市場」の前身です。取引量は年々増加し、昭和41年（1966）に現在地付近に移転するまで、市場の活況が駅周辺に賑わいをもたらしていました。

交易の場として栄えた三戸駅周辺は、人の流れの変化や人口減少などにより寂しくなる一方でしたが、かつての活気を取り戻そうと動き出す人たちが出てきました。その中心となっているのが、三戸駅前のカフェ「南部どき」オーナーの根市大樹さん。リンゴ倉庫をリノベーションし、平成30年（2018）にコーヒーと燻製のテイクアウト店を開きました。



人が集まる場ができ、さまざまな話題が飛び交う中で、おもしろい企画が生まれることもあります。そのひとつが、子どもたちがまち歩きをしながら幅広い世代と触れ合うイベント「三戸エキマエヒロバ」。根市さんは「この地域で暮らすおじいちゃんやおばあちゃんの知識や経験を埋もれさせることなく、子どもたちにつないでいきたい。農家の結ゆいのような、貸し借りのできるコミュニティが理想です」と話します。こうした取り組みは、活躍の場を求める若者も引きつけ、空き店舗を活用した店も増え始めています。人と人とのつながりから、新たな賑わいの風景が創出されようとしています。

● 奥州屈指の格式を誇る戦国大名

約500年前の戦国時代、当時、東北北部最大の戦国大名として君臨していたのが三戸南部氏です。南部氏一族は青森県全域から岩手県中部・秋田県鹿角地方へも勢力を伸ばしていました。

その頃の本拠地であった聖寿寺館（小向地区）では、近年の発掘調査により東北地方の戦国史を一新するような新事実が明らかとなりつつあります（1）。

聖寿寺館跡は馬淵川（まべち）の左岸（上流から下流を見た左側）、奥州街道と鹿角街道が交差する交通の要衝に位置しています（2）。曲輪の北、東、南は3本の直線の堀で「コの字形」に区画され、イメージ的には戦国時代の「城」というより、室町時代の「守護居館」に近く、令和2年（2020）の調査では曲輪北東部に1辺100メートル四方の武家居館と考えられる方形区画も新たに確認されました（3）。当時、室町幕府の足利將軍邸を頂点とする権威の象徴でもあった「方形居館」を南部氏一族の中で三戸南部氏だけが導入していたことは興味深い事実です。

この三戸南部氏の中央志向を端的に示しているのが、平成30年（2018）に出土した安産祈願のお守りと考えられる犬形土製品です（4）。国内の出土傾向から都周辺で生産されたと考えられますが、関東・甲

信地方には見られないことから、南部氏が日本海経由で都と直接交渉を持っていた証拠と考えられます。南部氏当主が上洛の際、奥方のために求めたお土産かもしれません。

● ブランド化されていた「戸立の馬」

犬形土製品は東北地方では4点の出土が確認されており、南部氏と上杉氏、伊達氏の城館で出土しています。この東北地方を

代表する戦国大名3者の共通点は、任官などで室町幕府と交渉を行うために、京都直通のチャンネルが必要だったということです。

犬形土製品との関連は不明ですが、天文8年（1539）7月、24代南部彦三郎（5）は上洛し、馬を献上した際、室町幕府12代將軍足利義晴に謁見し、「晴」の二字を与えられ、南部晴政と改名しています（『大館常興日記』）。当時、地方の有力領主たちは、領国支配に室町幕府の権威を利用するため、上洛の際に將軍へ馬などを献上し、名前を二

● 小特集

国史跡・聖寿寺館跡が語るもの

南部町教育委員会社会教育課史跡対策室 布施和洋



1 聖寿寺館跡発掘調査区。背後に見える山は名久井岳



2 聖寿寺館跡空撮写真（北西から）



3 方形区画南西角の溝跡

字賜ることもありました。晴政と同様に將軍義晴から「晴」の字を与えられた戦国大名の中には、伊達政宗の祖父・晴宗や武田晴信（信玄）、上杉謙信の兄・長尾晴景が見えます。

当時の南部氏の主要産業は馬の飼育でした。特に青森県東部から岩手県北部にかけては「戸」の地名が残っていますが、「戸」で生産された馬は「戸立の馬」と呼ばれ、都で数倍の価格で取引されました。聖寿寺館跡でも南側の堀跡から複数の馬の骨が出土しています（6）。都の貴族の日記には、応永25年（1418）8月10日、「関東大名南部上洛。馬百疋。金千両室町殿へ献之」（『看聞日記』）とあり、聖寿寺館の13代南部守行が4代將軍足利義持に馬100頭を献上したと考えられています。

馬は現代で例えるならば乗用車です。馬の焼き印はさながら「車のエンブレム」のようなもので、車1台の価格が200万円とすると、その数倍の1千万円クラスの高級外国車の生産工場がこの地に複数存在したようなものです。

さらに、それぞれの「戸」によって馬の焼き印は異なり、ブランド化されていました。現代に例えると、一戸が「ベンツ」、二戸が「BMW」、三戸が「ボルシェ」、四戸が「フェラーリ」のようなイメージで、守行の馬100頭の献上は、さながら「ベンツ」100台を連ねたパレードを都の大通りで開催したようなものでした。

うなものでした。

● 東北最大級、最大規模の発掘が相次ぐ

聖寿寺館跡では、高級馬の返礼品とも考えられる大陸産の高級陶磁器が大量に出土しています。中でも瑠璃色の水差しは極めて貴重で、国内では沖縄県の首里城と青森県の聖寿寺館跡の2例しか確認されていません（7）。

さらに、中央の情報をいち早く入手していた三戸南部氏は、15世紀末から16世紀前半にかけて、聖寿寺館を大改修し、最新設備を導入していたことが近年の調査で明らかとなっています。特に「館の顔」ともいえるべき出入口は、全国的にも早い段階で通路を2カ所直角に折り曲げる構造の「枡形虎口」に改修した上、東北最大の版築土



4 犬形土製品



5 24代南部晴政（もりおか歴史文化館所蔵）



6 馬顎骨出土状況



8 東北最大級の門柱跡



7 聖寿寺館跡瑠璃釉水注（右）
北京市出土瑠璃釉水注（左）



橋、東北最大級の門（8）を構築しています。また、城館中心部では東北最大規模となる掘立柱建物と2階建てと考えられる特殊建物なども建設していました。中心建物の大型化からは、津軽制圧後の家臣団の増加が読み取れ、三戸南部氏が戦国大名化していた様子がうかがえます。

馬淵川が拓いた 美田の里・苦米地

福地地区の馬淵川北部にあった旧地引村。その中心地だった苦米地は、アイヌ語の「トマム（沼地）・ペツ（川）」が地名の由来とされています。昭和初期までは馬淵川が氾濫を繰り返す湿地帯でした。また、古くから田んぼが開けていましたが、河岸段丘により馬淵川か

ら引水できず、水源は溜池や井戸のみでした。昭和4年（1929）、地引村の夏堀源太郎村長は村の有志と地引耕地整理組合を設立し、区画整理と畑地改田、灌漑用水路整備を行いました。5年の歳月を経て昭和9年（1934）、湿地は163町歩の美田に生まれ変わり、「苦米地米」と呼ばれる良質米の産地となったのです。そして、南部藩に献上された「御前米」、その歴史を引き継ぐ地域ブランド

米「ふくちこがね」へとつながっていました。平成の大合併で南部町が生まれ、新たな町のブランド米として平成23年（2011）に商標登録されたのが、「南部達者米」です。これは、農薬や化学肥料を通常の5割以下に減らし、青森県の特裁栽培認証を受けた農家が生産した米。平成29年（2017）から販売が開始されました。生産者の一人で、販売も手がける有限会社山金代表取締役の山道金太郎さんは、「品種は『つがるロマン』で、適度な粘りと甘味が特徴です。南部達者米を通じて、南部町を知ってもらいたい。そして、地域の農業を元気にしたいです」と、期待を込めて語ります。高効率で高品質な米づくりと担い手確保のため、馬淵川沿いの水田地帯では、大区画化を中心とした圃場整備が進められています。

シビックプライド

『花は山、人は里』を訪ねて

③

福地地区／町内第一の 穀倉地帯と文化



馬淵川と福地橋（少し上流の吊り橋・苦米地橋は平成24年の台風で流失した）



御嶽神社「地引耕地整理揚水記念の碑」



苦米地の稲刈り風景



「南部達者米」と山道金太郎さん、長男の金也さん

事業を推進する福地土地改良区は、平成28年（2016）に全国土地改良事業団体連合会の功労者表彰で金章を受けました。

「ふくちホワイト六片種」 発祥の地

鎌倉時代に幕府が牧を設け、馬産地として栄えた南部地方。一説によると、馬にとつてニンニクは万能薬だったため、ニンニク栽培が始まったといわれています。また、今から200年以上前、苦米地地区の農家の人たちがお伊勢参りをした際、種子を手に入れ栽培したのが始まりという説もあります。

苦米地で生産されるニンニクは、色が白く、大型で、甘味があり、「苦米地ニンニク」と呼ばれ特に評判が高く、戦後は行商人を通じて八戸市などに売られました。青森県農業試



「ふくちホワイト」の選別作業をする庭田豊さん



バーデパークの「ふくちアイスアリーナ」の賑わい



「とまべちまつり」の山車を飾ってある作業小屋と
夏堀徳八志さん（達者達人）

験場は苦米地ニンニクを県の奨励品種に選び、「ふくちホワイト六片種」と命名。昭和38年（1963）から全県に栽培が普及しました。

生産者の庭田豊さんは「有機質の多い土壌と冬の寒さ、春からの温暖な気候、豊富な地下水が揃う苦米地は、ニンニク栽培の適地です。種子更新も順調に進み、高品質を保っています」と話し、原産地での生産に誇りを持ち、栽培に取り組んでいます。普段からニンニクはよく食べ、健康維持に役立てているそうで、丸ごと油で揚げたり、豚汁に粒のまま入れたり、醤油漬けにしたりと、産地ならではのおいしい食べ方も教えてくれました。

健康増進施設「バーデパーク」と 町に活気をもたらすイベント

南部町民の健康づくりの拠点であるバーデ

パークは、ドイツの温泉保養システムを取り入れた運動浴プールやトレーニングルーム、アイスアリーナ、宿泊施設などを備えた複合施設です。バーデパークを運営する南部町健康増進公社では、健康増進のためのイベントも開催しています。例年6月に行われる「ふくち里山あるき」は、バーデパークを発着点に8キロと16キロの2コースをウォーキングするイベントです。幅広い世代の参加者が運動に親しんだり、交流を楽しんだりする機会となっています。

毎年7月上旬に開催され、県南地方最初の夏まつりとして知られる「ジャックドまつり」も、年代を問わずたくさんの人で賑わいます。「ジャックド」とは県南地方の方言で「たくさん」という意味。花火大会やタレントショー、郷土芸能の発表など盛りだくさんの内容で、2日間で7万人が来場します。9月には苦米地地

区の4町内がそれぞれ自慢の山車^{だし}を披露する「とまべちまつり」が開催されます。

ジャックドまつり実行委員会会長で、福地芸能愛好会会長も務める夏堀徳八志さんは、「幼い頃から新舞踊やえんぶり、太鼓に親しみ、今では山車作りが趣味なんですよ」という、根っからの祭り好き。「地域の子どもたちに喜んでもらえるのが何よりうれしい」と目を細め、次世代に祭りの伝統をつなぐため、一年を通して忙しく飛び回っています。

明治20年創業の老舗 「森田麴・味噌店」

冷涼な気候の南部地方では、藩政時代から米に代わる作物として大豆などの雑穀が植えられてきました。大豆だけで作る「玉味噌」は庶民の日常食で、軒先に味噌玉がつるされている風景は、この地方の春の風物詩でした。度重なる飢饉^{ききん}の際にも、味噌は人々の命をつなぐ貴重な栄養源となりました。

また、大豆は八戸藩にとって重要な換金作物であり、醤油や味噌の原料として江戸や上方に運ばれ、藩の財政を支えました。

明治20年（1887）から130年以上続く「森田麴^{こうじ}・味噌店」は、創業以来の製法を守り続けています。女将の森田幸子さんは「伝統の味だからおいしいのではなく、おいしいから伝統を守っているのです」と、変わらないこ

旧田部村の 昔と今と

とへの強い思いを口にします。
味噌は地域の暮らしに密着し、独自の食文化も育んできました。森田さんによると、「油味噌」を最初に発信したのが「森田麴・味噌店」。麦味噌を油でよく炒め、砂糖を加え、刻みネギやじゃこ、ミョウガなどを好みで加えたご飯のお供を2代目当主の妻が考案し、地域の人に伝えたといえます。
地域に味噌文化を根付かせながら、受け継がれてきた二子相伝の技。「この味と伝統は、自分たちのものではなく、先祖からの預かりもの。だから、つなげなければなりません」と森田さんは話します。

旧田部村は、福地地区を流れる馬淵川の南

シビックフライド——『花は山 人は里』を訪ねて

③

福地地区／町内第二の 穀倉地帯と文化



明治20年から続く老舗「森田麴・味噌店」の作業場と店主の森田幸子さん



福田小学校児童による景観授業「福田八景」



福田・埴渡地区の丘陵地に広がる団地群
(馬淵川を挟んで手前は苦米地の水田地帯)



隠れ湯屋「福田温泉・癒楽家福泉」



田中家住宅主屋（国有形文化財）



「Galleryたなか」で田中家当主・田中裕さんと、ギャラリー主宰者の田中充子さん

街並みや、えんぶりの風習なども受け継がれ、地域の暮らしや文化を今に伝えていきます。

明治23年建築の田中家と「Galleryたなか」

側に位置し、丘陵地に畑が広がる農村地帯でした。昭和30年（1955）に地引村と合併して福地村となり、川を隔てた地引地区との交流が活発化すると、その風景は次第に変化していきます。隣接する八戸市の発展とともに、田部地区には住宅団地が整備されてベッドタウン化が進み、東部には福地工業団地が造成されました。

宅地化や工業化が進む一方で、変わらぬ風景や文化・風習に触れることができるのも、田部地区の特色です。

田部地区南部、福田地区の山間にある福田温泉は、明治初期、炭焼き小屋の脇にあった池の水を引き入れて沸かしたのが始まりで、皮膚病に効くといわれる評判の湯。鄙（ひな）のいで湯といった風情で、今も地域の人たちの癒しの場となっています。また、福田地区には古い

屋根の中央に洋風の望楼を設えた田中家住宅は、古民家が点在する福田地区の中でも一際目を引きます。主屋と門は、明治23年（1890）に建てられました。山を所有し、戦前は100頭以上の軍馬を育てていた田中家。広い馬屋からも、往時を想像することができます。主屋と米蔵、門は、平成19年（2007）に国登録有形文化財となりました。田中家は130年前、福田上えんぶり組の結成を支援し、今も深く関わっています。8代目当主の田中裕（ひろし）さんは「福田上えんぶり組

福地地区略図



の衣装には、田中家の家紋である松皮菱が入っています。年1回、関係者を招いて開くお座敷えんぶりでは、田中家が代々守っている初代の烏帽子と舞台幕を披露し、その烏帽子を『遊ばせる』のです」と説明します。

田中家は私邸のため通常は見学不可ですが、現代の民芸をテーマにした展示会を年10回ほど開催し、期間中のみ建物内部や庭を公開しています。当主の妹でギャラリー主宰者の田中充（みつこ）さんは「国内外の用美を兼ねたもの、生活を豊かにするものを紹介したい」と話します。時代を経ても変わらぬ空気をまとい、田中家は歴史を刻み続けていました。

共にまちづくりを推進するために

まちづくりの基本理念

将来的な人口減少や長寿化の中で、多様化する価値観やライフスタイルに対応しつつ、町民が住み続けられる持続可能なまちづくりを推進します。また、町に住む人と訪れる人が安全・安心や幸せを実感し、未来に希望が持てるまちづくりを推進します。

●南部町の将来像／10年後のまちの姿／ みんながつながり 達者に暮らす 笑顔あふれるまち 南部

本町には先人から受け継がれてきた歴史・文化、伝統、風習などが各地域に根付いています。これらは、まちでの暮らしを「達者」(※)に営むための、いわゆる「南部町らしさ」につながっています。今後、まちの姿が変わっていく中でも子や孫に「南部町らしさ」を引き継いでいくことで、世代や時代がつながっていきます。

本町では、この先10年かけて、町民だけでなく、まちを訪れる人やまちを想うすべての人の心をつなぎ、まちにかかわるすべて

の人々が笑顔であふれるまちを目指します。
※ 達者／学問・技能などの道に熟達している人。達人。物事に慣れていて、巧みなさま。からだが丈夫で健康なさま。

●戦略プロジェクト

1. 達者村プロジェクト

達者村プロジェクトとは、従来の達者村事業をベースに、農業振興や観光振興など



を通じて、地域活性化を一体的に推進するためのプロジェクトです。

交流人口や関係人口を増やすことが、将来的な移住者の増加につながり、本町が抱える人口問題の解決に寄与することが期待されます。

特に、ブランド化につながる特産品や地域学などに精通した「達人」と呼ばれる人の育成・発掘については、「人づくりプロジェクト」との関連性が強いものです。

2. 人づくりプロジェクト

人づくりプロジェクトとは、人生100年時代を見据えて、希望するライフスタイルを実現していくことができる経済や社会を実現するとともに、町内だけに限らず広く世界で活躍する町民を応援するためのプロジェクトです。

町民が自己実現を果たすことで定住の促進が図られ、地域の担い手となる人材が増え、地域内の消費が促進されると、地域産業の活性化に寄与することが期待されます。

地域活性化を図る「達者村プロジェクト」と、生活の基盤を整える「暮らし向上プロジェクト」

クト」とが相まって、プロジェクトを推進していくための原動力となるものです。

3. 暮らし向上プロジェクト

暮らし向上プロジェクトとは、町民にとつ

基本目標——1

産業振興で活力と交流に満ちたまち

安全・安心な食料生産拠点を目指す農業振興を基本に、農業や商業、工業、観光などの各産業間の連携を強化し、活力あるまちづくりを目指します。

町内外の人々が様々な機会を通して活発



て安全・安心はもとより、経済的かつ、快適で豊かな暮らしを実現するためのプロジェクトです。

多様化する価値観やライフスタイルに対応した生活の基盤を整えることで、移住と

に交流する、ふれあいに満ちたまちづくりを目指します。

【政策1】 地域を支える農業の振興

【政策2】 賑わいと暮らしを支える商工業の振興

【政策3】 新たな活力を生み出す雇用対策の推進

【政策4】 交流を促進する観光・交流産業の振興

基本目標——2

保健・医療・福祉が充実して

安全・安心・快適に暮らせるまち

保健・医療・福祉が連携した地域包括ケアシステムの機能が拡充され、町民一人ひとりが健やかに暮らすことのできるやさしいまちづくりを目指します。

【政策5】 健康に暮らせる保健・医療・福祉の充実

【政策6】 便利で暮らしやすい生活基盤の充実

【政策7】 安心して暮らせる防災・安全の充

定住の促進が図られます。

健康で文化的な暮らしは、「人づくりプロジェクト」で自己実現を果たすために必要不可欠なものです。



実

基本目標——3

環境と共生して 幸せを実感できるまち

豊かな自然、美しい景観を守り、環境に配慮した快適で住みやすいまちづくりを目指します。

まちの発展に向けた計画的かつ調和のとれたまちづくりを目指します。

〔政策8〕 豊かでかけがえない自然環境の形成

〔政策9〕 快適で住みやすい生活環境の形成
〔政策10〕 適正な土地利用の推進

基本目標 ————— 4

**明日を担う人を育て
一人ひとりの個性を活かすまち**

町民が、同世代あるいは世代間で、自主的に生涯学習活動に取り組むことができるまちづくりを目指します。

古くから地域に伝わる文化や伝統を守り後世に伝えるための活動や、新しい文化を



創造するための活動など、様々な場面で人づくりを支援し、一人ひとりの個性を大切にするまちづくりを目指します。

〔政策11〕 未来を担う人づくりの推進

〔政策12〕 貴重な地域文化の継承と新たな文化の創造

基本目標 ————— 5

**協働と参画により
町民が主役になるまち**

自分たちのまちは自分たちでつくるという意識を醸成しながら、町民一人ひとりが生き生きとして、地域や世代で連携しながら、町民と行政の協働によるまちづくりを目指します。



〔政策13〕 地域を活性化するコミュニティ活動の推進

〔政策14〕 協働と参画によるまちづくりの推進

〔政策15〕 男女共同参画社会と人権尊重社会の構築

基本目標 ————— 6

**計画的・効率的な
行財政運営を目指すまち**

健全で安定した行財政運営を継続し、町民に対する行政サービスの維持向上を目指します。

〔政策16〕 効率的な行財政運営と広域行政の推進

町民に開かれた議会

町議会では、平成30年4月に策定した「第2次南部町総合振興計画」に基づき、次の世代を担う若い世代を後押しするため、少子高齢化対策や移住・定住対策などの諸問題の解決を図り、「みんながつながり達者に暮らす 笑顔あふれるまち」づくりに向けて活動しています。

また、南部町役場新庁舎が完成し、今後、議会のICT化がますます進んでいくことから、タブレット端末を導入した議会運営の効率化を図るなど、町民に開かれた議会を目指します。

南部町議会議員名簿（敬称略）
令和5年10月1日～令和9年9月30日

議長 工藤 正孝

副議長 西野耕太郎

議員 川守田 稔

馬場 又彦

根市 勲

中館 文雄

八木田憲司

山田 賢司

滝田 勉

坂本 典男

久保 利樹

松本 啓吾

工藤 愛

小橋 昭裕

夏堀 剛充

沼畑 俊吉



議長 工藤 正孝

副議長 西野耕太郎



町民と対話する行政

町では、平成30年度（2018年4月）

から10年間で基本構想期間とする「第2次南部町総合振興計画」を策定しました。3つの戦略プロジェクトと6つの基本目標を掲げて数々の施策を展開し、人口減少・少子

高齢化などに対応しています。

また、多様化する価値観やライフスタイルに対応しつつ、町民が住み続けられる持続可能なまちづくり、町に住む人と訪れる人が安全・安心や幸せを実感し、未来に希望

が持てるまちづくりを推進するため、常に

行政システムの見直しを行い、住民に信頼される行政機関の確立を図りながら、効果的な財政運営により、町の持続的な発展に努めます。



副町長 佐々木俊昭 町長 工藤祐直 教育長 高橋力也

南部町行政組織図（令和3年8月1日現在）





土地利用

◎各年1月1日現在

(単位：km²)

年 度	内 訳						
	田	畑	宅地	山林	原野	その他	計
令和3年	11.80	32.39	6.27	63.32	7.59	31.75	153.12
令和4年	11.78	32.32	6.28	63.14	7.48	32.12	153.12
令和5年	11.73	32.05	6.27	63.27	7.62	32.18	153.12

資料：税務課(固定資産税概要調書)



気 象

令和4年	日最高気温 月 平 均 (℃)	日最低気温 月 平 均 (℃)	日照時間 月 合 計 (h)	降水量 月 合 計 (mm)	降 雪 月 合 計 (cm)	日平均風速 月 平 均 (m/s)
1月	2.1	-7.3	119.8	44.0	85	1.7
2月	2.8	-6.5	114.3	18.0	52	1.9
3月	8.8	-2.3	171.4	107.0	55	1.9
4月	17.9	2.1	230.6	56.0	0	2.0
5月	23.4	8.2	256.9	45.5	0	1.7
6月	23.9	13.2	161.9	111.0	0	1.5
7月	27.7	19.0	140.0	154.0	0	1.1
8月	27.8	18.7	104.2	467.0	0	1.0
9月	26.7	14.4	162.1	128.5	0	1.0
10月	18.5	6.1	126.1	73.5	0	1.1
11月	14.5	0.6	145.8	59.5	0	1.3
12月	4.3	-3.8	89.2	76.5	26	1.5

出典：気象庁(観測点:三戸)



人口動態

(単位：人)

年 度	自然動態								
	出生			死亡			増減		
	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数
令和2年	35	37	72	152	170	322	-117	-133	-250
令和3年	37	31	68	160	159	319	-123	-128	-251
令和4年	22	34	56	186	175	361	-164	-141	-305

年 度	社会動態								
	転入			転出			増減		
	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数
令和2年	213	197	410	227	234	461	-14	-37	-51
令和3年	192	184	376	211	221	432	-19	-37	-56
令和4年	186	218	404	217	203	420	-31	15	-16

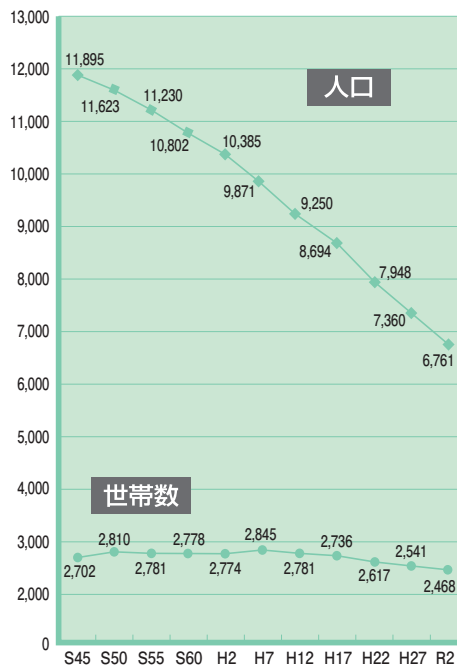
資料：県人口移動統計調査



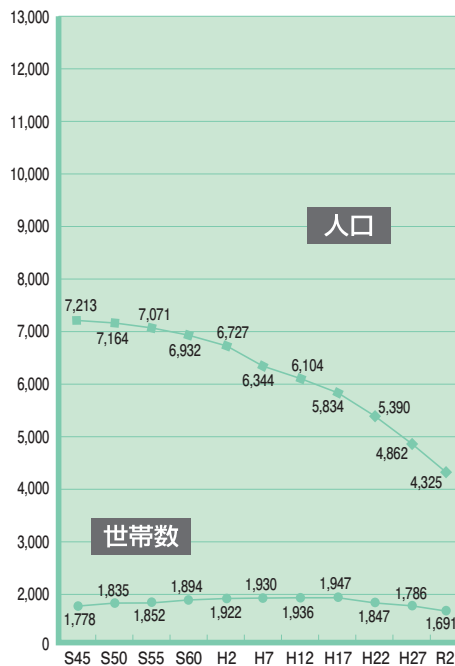
国勢調査人口・世帯数

◎各年10月1日現在

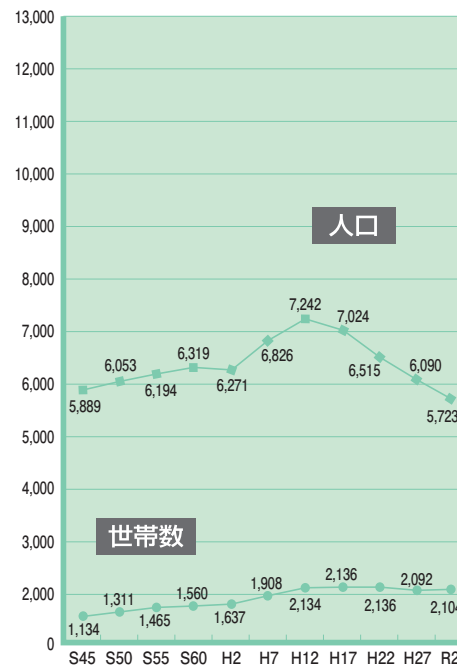
令和2年10月1日 ■人口:16,809人(男 7,884人、女8,925人) ■世帯数:6,263戸



旧名川町



旧南部町



旧福地村

資料：国勢調査

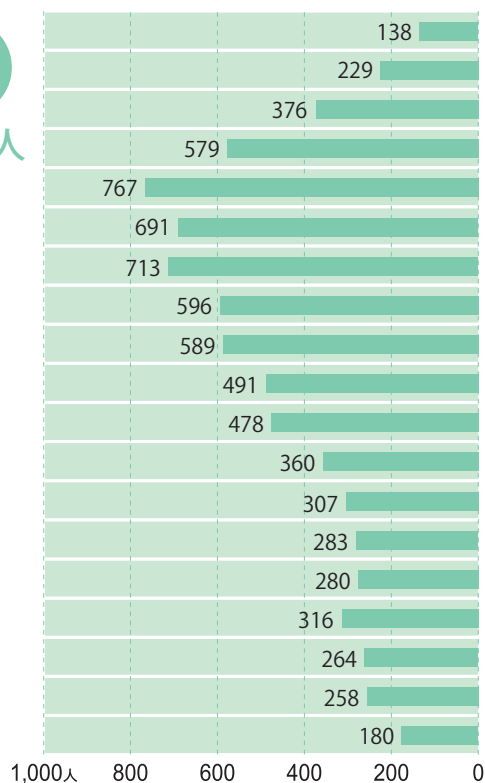


年齢階層別人口

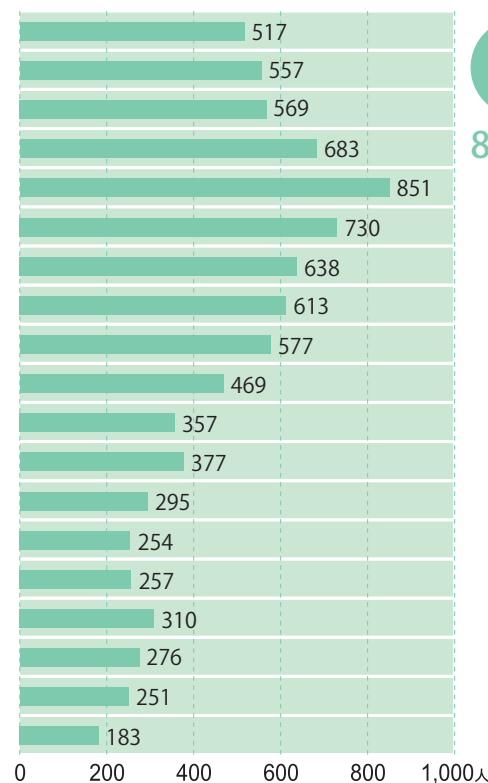
◎令和5年10月1日現在

■人口:16,659人 ■世帯数:7,484戸 ■人口密度(1km²あたり):108.8人 ■世帯当たり構成員数:2.23人

男
7,895人



90歳以上
85～89歳
80～84歳
75～79歳
70～74歳
65～69歳
60～64歳
55～59歳
50～54歳
45～49歳
40～44歳
35～39歳
30～34歳
25～29歳
20～24歳
15～19歳
10～14歳
5～9歳
0～4歳



女
8,764人

資料：住民生活課(住民基本台帳)



各種検診の受診者数

(単位：人)

年 度	健康診査	胃がん	大腸がん	子宮頸がん	乳がん	肺がん	前立腺がん	骨密度
平成30年	1,730	1,523	2,600	1,065	798	3,369	1,045	117
令和元年	1,689	1,414	2,546	1,081	760	3,234	1,028	100
令和 2 年	1,652	1,322	2,589	1,024	791	3,105	1,002	119
令和 3 年	1,584	1,304	2,490	1,066	679	3,034	957	106
令和 4 年	1,492	1,234	2,462	1,002	641	2,923	894	95

※令和4年度分は見込値

資料：健康こども課



予防接種の接種者数

(単位：人)

年 度	BCG	ロタ	二種混合	四種混合	ポリオ	MR	日本脳炎	ヒブ	肺炎球菌	水 痘	子宮頸がん	B型肝炎
平成30年	89	—	136	348	3	176	550	336	335	161	4	243
令和元年	66	—	117	283	0	189	547	281	284	162	15	189
令和 2 年	79	63	119	321	0	175	560	297	295	157	36	222
令和 3 年	68	148	106	286	0	171	374	286	285	146	74	209
令和 4 年	60	143	95	265	0	169	467	259	256	152	244	181

資料：健康こども課



児童福祉施設の概況

◎各年4月1日現在

年 度	学童クラブ		児童館		こども園	
	数	児童数(人)	数	児童数(人)	数	児童数(人)
平成30年	8	219	2(2)	0	3	326
令和元年	8	220	2(2)	0	3	357
令和 2 年	8	242	廃止	—	4	341
令和 3 年	8	259	廃止	—	4	342
令和 4 年	8	231	廃止	—	4	342

資料：健康こども課



幼・小・中・高等学校の概況

◎各年5月1日現在

年 度	幼稚園		小学校			中学校			高等学校			
	数	園児数(人)	学校数	学級数	児童数(人)	学校数	学級数	生徒数(人)	学校数	学科数	学級数	生徒数(人)
平成30年	1	85	8	53(11)	718	4	21(5)	406	1	3	9	261
令和元年	1	83	8	56(14)	669	4	20(5)	387	1	3	9	263
令和 2 年	1	69	8	56(14)	663	4	20(4)	383	1	3	8	245
令和 3 年	1	64	8	57(16)	650	4	21(6)	374	1	2	7	216
令和 4 年	1	54	8	56(15)	632	4	20(6)	341	1	2	6	175

※令和2年度より幼稚園は、こども園に移行

※小・中学校の()は特別支援学校

資料：学校基本調査



農 業

◎各年2月1日現在

年 度	戸数(戸)			農業就業人口(自営農業に主として従事した世帯員数)(人)								
				男			女			計		
	専業農家	兼業農家	計	15~64歳	65歳以上	計	15~64歳	65歳以上	計	15~64歳	65歳以上	計
平成17年	485	1,153	1,638	769	732	1,501	917	895	1,812	1,686	1,627	3,313
平成22年	519	937	1,456	639	678	1,317	693	794	1,487	1,332	1,472	2,804
平成27年	526	705	1,231	474	617	1,091	551	655	1,206	1,025	1,272	2,297

資料：世界農林業センサス・農林業センサス



事業所の概況

◎各年10月1日現在

(従業者数：人)

産業分類	平成21年		平成26年		平成28年		令和3年	
	事業所数	従業者数	事業所数	就業者数	事業所数	就業者数	事業所数	就業者数
総 数	752	4,342	649	4,334	613	4,044	561	4,102
農 業	11	132	12	115	10	65	12	95
林 業	2	17	2	17	2	16	2	11
漁 業	1	65	1	28	1	5	1	29
鉱 業	1	6	1	12	1	10	1	9
建設業	101	696	80	562	74	525	67	505
製造業	73	605	75	838	67	762	47	614
電気・ガス・水道業	0	0	0	0	0	0	0	0
情報通信業	0	0	1	2	1	0	1	0
運輸(通信業)	13	119	11	93	12	92	8	94
卸売・小売業	254	1,046	210	941	200	908	169	934
金融・保険業	12	57	8	43	7	42	5	20
不動産業・物品賃貸業	15	33	13	14	11	18	6	10
飲食店・宿泊業	56	236	43	201	38	151	27	94
医療・福祉	44	801	54	1,005	54	1,057	76	1,161
教育・学習支援	5	19	4	15	4	7	9	101
複合サービス業	14	70	14	71	14	60	11	51
サービス業	104	227	96	271	94	227	80	217
他に分類されないもの	46	213	24	106	23	99	39	157

資料：経済センサス基礎調査・経済センサス活動調査



産業別総生産

(単位：百万円)

年 度	第1次産業				第2次産業				第3次産業				
	農 業	林 業	水産業	小 計	鉱 業	製造業	建設業	小 計	電気・ガス・水道・ 廃棄物処理業	卸売・小売業	運輸・郵便業	宿泊・飲食 サービス業	情報通信業
平成29年	7,765	96	0	7,861	162	4,672	2,503	7,338	1,482	3,107	1,114	344	0
平成30年	7,615	100	0	7,715	134	4,061	3,321	7,516	1,400	3,102	1,078	322	0
令和元年	4,617	103	0	4,720	121	4,022	5,446	9,589	1,435	3,035	1,168	282	0

年 度	第3次産業								産業計	輸入品に 課される 税・関税	(控除) 総資本形成 に係る消費税	総生産
	金融・ 保険業	不動産業	専 門・ 科学技術・ 業務支援 サービス業	公 務	教 育	保健衛生・ 社会事業	その他 サービス業	小 計				
平成29年	595	5,413	497	3,039	2,714	7,341	1,660	27,305	42,504	217	690	42,031
平成30年	612	5,346	486	3,062	2,690	7,408	1,631	27,138	42,370	271	619	42,021
令和元年	592	5,322	485	3,056	2,688	7,632	1,610	27,305	41,614	241	556	41,300

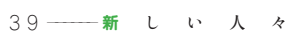
※四捨五入のため、計と内訳との合計が一致しない場合があります。

資料：青森県企画政策部（市町村民経済計算）

A group of young girls in traditional pink and purple Chinese clothing with gold headpieces, performing a dance or ceremony.

A large group of people, mostly children and young adults, are sitting on the ground in front of a stage. They are facing the stage, which has a large arched structure with a sign that reads "KIDZ ON THE BLOCK". The event appears to be a community gathering or a performance. The people are dressed in casual clothing, and the atmosphere is relaxed. The stage is elevated and has some equipment on it, including what looks like a microphone stand and some boxes. The background shows some trees and a clear sky.

The map illustrates the geographical layout of Nambu Town, Aomori Prefecture. It features a network of roads and rail lines connecting the town to nearby urban centers. Notable locations include the Nambu Health Center, Nambu Office, and several recreational areas like Nambu Park and Nambu Sports Ground. The map also identifies local businesses and services, such as the Nambu Post Office and Nambu Fire Station. The inset map at the bottom left offers a wider perspective, showing the town's proximity to the coast and its connection to the regional transportation system.



2021 ●青森県南部町●町勢要覧 第2版

発行———南部町

〒 039-0592

青森県三戸郡南部町大字平字広場 28-1

TEL 0178-76-2111 (代)

FAX 0178-38-5974

<http://www.town.aomori-nanbu.lg.jp>

編集———南部町企画財政課

